

(メッセ海外通信 2009年7→9月号掲載記事)

～釜山日本人学校について～

下関市総合政策部国際課
(釜山広域市派遣職員)
藤川 雅宏

海外へ企業が進出する場合、帯同する現地駐在員の家族の生活環境も考慮すべき重要な要素の一つではないでしょうか？現地駐在員らの子女の教育環境の充実を図るために釜山日本人会が設置している釜山日本人学校(校長：田上 恭孝、所在地：釜山広域市水営区民楽洞173-8)を今回紹介いたします。

釜山日本人学校は、昭和50年(1975年)、日本の文部科学省・外務省及び韓国政府文教部・外務部の認可を得て、日本人会、その他関係機関の熱心な働きかけにより設置されました。小学部及び中学部があり、日本における公立学校の課程と同等に認められていますが、韓国においては韓国教育法に基づく各種学校として位置づけられています。

教職員は、文部科学省より派遣されている派遣教員(現在9名)及び、釜山日本人会の学校運営委員会が認めた現地採用の教職員により組織されています。教育課程は、日本国内の学習指導要領に準拠しています。また、同校の特色として教科・道徳・特別活動に適宜、現地素材を教材化して取り入れているほか、韓国語及び英会話が特設されています。

40名程度と小規模校であることから、その特色を生かすため、『ひたすらに、友と学び、共に磨く』を重点教育目標として、友と一緒に「できた楽しさ」「創りあげる喜び」を味わう学びを追求しています。全校清掃の時間には、縦割りのグループ(ファミリー)を作って、清掃道具の使い方や掃除の仕方など、上級生が下級生の子供たちに教えながら実施し、図工や体育などは、学年の枠を取り払って、ともに学びあいを行っており、子供たちが自主的主体的に活動できるように配慮されています。

国際理解教育については、教科指導をはじめ、地元の民楽初等学校(小学校)、インターナショナル・スクール(ISC)との「3校交流」を毎年実施する等、地元との交流、各種行事への積極的な参加等を通して、国際性豊かな児童・生徒の育成に力を入れています。

昨年11月に下関市の小学生10名が市の小学生韓国派遣事業で釜山日本人学校を訪問しました。日本人学校の小学生と中学生による校歌と「故郷の春」という韓国語の歌の披露、5、6年生の和太鼓演奏、中学生による学内案内など、温かい歓迎を受けました。特に子供たちの明るい笑顔での挨拶に感心しました。

昨年度まで、高度の視覚障害を持った児童も一緒に学んでいましたが、前述の3校交流において、彼が「達磨おとし」を成功させ、ヒーローとなったそうです。「達磨おとし」での成功は、子供たち全員の成功であったと考えます。日頃から子供たちは彼を積極的に支えるのではなく、（自主性主体性を尊重し）見守り、必要な時に手を差し伸べていたそうです。教育及び社会的な環境が良好であると子供たちの意識も自ずと向上します。子供たちにとっては日常的なことであっても、大きな意味を持つ交流がこの学校にはいつも普通に存在しているのです。